教科書との対応

三省堂 中2『現代の国語2』p.136～139「漢詩の世界」
光村図書 中2『国語2』p.158～162「漢詩の風景」

次の漢詩（訓読文・白文・書き下し文）と、現代語訳・解説を読んで、あとの問いに答えなさい。

黄鶴楼送孟浩然之広陵　李白

故人西辞黄鶴楼
煙花三月下揚州
孤帆遠影碧空尽
唯見長江天際流

（白文）故人西辞黄鶴楼　煙花三月下揚州
孤帆遠影碧空尽　唯見長江天際流
（書き下し文）黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る
故人西のかた黄鶴楼を辞し
［　X　］
孤帆の遠影碧空に尽き
唯見る長江の天際に流るるを

（注）黄鶴楼＝長江のほとりに建つ高い建物。広陵＝揚州の古い呼び名。辞し＝別れを告げて去り。煙花＝春がすみの中にけむるように咲く花。揚州＝長江の下流の大きな町。孤帆＝ただ一つの帆かけ船。碧空＝青く晴れた空。天際＝空の果て。

【現代語訳】

［　a　］である孟浩然は、西にあるこの黄鶴楼に別れを告げ、花が春がすみにけむる三月に、揚州へと川を下っていく。友を乗せたただ一そうの帆かけ船の遠い姿は、やがて［　b　］の中に消えてしまい、あとには、ただ長江が［　c　］へと流れていくのが見えるばかりである。

【解説】

作者の李白（七〇一～七六二）は、唐の時代の詩人で、自由で力強い詩風から「詩仙」とよばれた。孟浩然は李白より十歳あまり年上の詩人で、李白が心から慕っていた友である。

黄鶴楼は、長江の中流のほとりに建つ高い楼で、揚州は、そこから長江を東へ下った先にある、にぎやかな町である。黄鶴楼は揚州から見て西にあたるので、第一句では「西のかた」と言っている。第二句の「煙花三月」は、花が春がすみにけむる、春のさかりのころ。友は、はなやかな季節に、はなやかな町へと旅立っていくのである。

第三句では、楼の上から見送る作者の目にうつる景色がえがかれる。友を乗せた一そうの帆かけ船は、だんだん小さくなり、とうとう青空の中に消えてしまう。船が見えなくなるまで見送るのだから、1作者は長い時間、その場に立ちつくしていたことになる。

第四句では、船が消えたあとの景色がえがかれる。作者の前には、空の果てまで流れていく長江があるばかりである。「唯」は、「ただ……だけ」という意味の語で、もう友の船はどこにもないことを強く感じさせる。

この詩には、「さびしい」「悲しい」といった、作者の気持ちを直接表すことばは一つもない。2別れのさびしさは、一言も書かれていないのである。それでも、遠ざかる帆と、果てしなく流れる大河の景色から、友を思う作者の深い気持ちが伝わってくる。景色にことよせて心を表すところに、この詩のすぐれたところがある。

（漢詩は李白「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」注・現代語訳・解説は創心館オリジナル）

問一 この詩の形式を、漢字四字で答えなさい。

問二 この詩で押韻している字を、訓読文から三つ抜き出し、句の順に書きなさい。

問三 書き下し文の［ X ］に入る第二句を、訓読文の返り点と送り仮名にしたがって、書き下し文に直しなさい。

問四 第一句「故人西辞黄鶴楼」を、返り点にしたがって読む順番に、漢字を書き並べなさい。

問五 【現代語訳】の［a］～［c］に入ることばとして最も適切なものを、次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 古くからの友人　イ 亡くなった人　ウ 青く晴れた空
エ 白い雲　オ 空の果て　カ 山のかげ

a　b　c

問六 第一句に「西のかた黄鶴楼を辞し」とあるが、友の孟浩然は、黄鶴楼からどの方角へ向かって旅立ったか。漢字一字で答えなさい。

問七 第二句の「煙花三月」から、友が旅立った季節を、漢字一字で答えなさい。

問八 1作者は長い時間、その場に立ちつくしていたとあるが、そのように言えるのはなぜか。最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友の船が小さくなり、青空に消えて見えなくなるまで見送っているから。
イ 友といっしょに船に乗り、揚州に着くまで長い旅をしたから。
ウ 春がすみが晴れて、青空が見えるまで待っていたから。
エ 黄鶴楼を建てるのに、長い年月がかかったから。

問九 第四句（結句）で、作者が見つめているものとして最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 遠ざかっていく友の船。
イ 空の果てへと流れていく長江。
ウ 黄鶴楼の上に広がる青空。
エ 花がさきみだれる揚州の町。

問十 作者が友を見送っている場所を表す語を、訓読文から三字で抜き出しなさい。

問十一 2別れのさびしさは、一言も書かれていないとあるが、作者は、別れのさびしさをどのように表しているか。「船」「長江」という二つのことばを使って、三十字以上、四十字以内で書きなさい。

解答と解説

漢詩 標準② 黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る（李白）

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る

問一 七言絶句

【根拠】詩は四句。どの句も「故人西辞黄鶴楼」のように七字。

【読み方の型】四句＝絶句・八句＝律詩、一句七字＝七言・五字＝五言。句の数と字の数を、白文の漢字で数える。

【よくある間違い】「七言律詩」……律詩は八句。この詩は四句。

問二 楼・州・流

【根拠】第一句の終わり「楼（ロウ）」、第二句の終わり「州（シュウ）」、第四句の終わり「流（リュウ）」。

【読み方の型】七言の詩は「第一句の終わり」と「偶数句の終わり」で韻をふむのが基本。音読みして「〜ウ」のひびきを確かめる。

【よくある間違い】「州・流」だけ……七言では第一句の終わりもふむ。／第三句の「尽（ジン）」を入れる……絶句の第三句（転句）の終わりはふつう韻をふまず、ひびきもちがう。

問三 煙花三月揚州に下る

【根拠】第二句の訓読文「煙花三月下ル二揚州ニ一」。

【読み方の型】返り点のない「煙」「花」「三」「月」を上から読み、二点の「下」はとばす。「揚」「州」と読んで一点まで来たら、二点の「下」にもどる。送り仮名「ニ」「ル」はひらがなにする。

【よくある間違い】「煙花三月下る揚州に」……返り点を無視している。／「煙花三月揚州ニ下ル」……送り仮名をかたかなのまま書いている。

問四 故人西黄鶴楼辞

【根拠】第一句の訓読文「故人西ノカタ辞シ二黄鶴楼ヲ一」と、書き下し文「故人西のかた黄鶴楼を辞し」。

【読み方の型】一二点は、二字以上はなれた字に返るときに使う。二点の「辞」をとばして「黄」「鶴」「楼」と読み、一点の「楼」から二点の「辞」にもどる。

【よくある間違い】「故人西辞黄鶴楼」……白文の順のまま。／「故人西楼鶴黄辞」……一二点の間の字（黄鶴楼）は、上から順に読む。一字ずつ返るのはレ点のとき。

問五 a ア　b ウ　c オ

【根拠】a＝第一句「故人」。b＝第三句「碧空」（注：青く晴れた空）。c＝第四句「天際」（注：空の果て）。

【読み方の型】訳の文がどの句のどの語にあたるかを先に決める。aは文の主語で、孟浩然のことを言いかえた語＝第一句の「故人」。漢文の「故人」は「古くからの友人」という意味。

【よくある間違い】aに「イ　亡くなった人」……今の日本語の「故人」とは意味がちがう。／bに「エ　白い雲」……「碧」は青緑色。白い雲ではなく、晴れた青空。

問六 東

【根拠】第一句「西のかた黄鶴楼を辞し」と、解説の第二段落「揚州は、そこから長江を東へ下った先にある」「黄鶴楼は揚州から見て西にあたる」。

【読み方の型】「西のかた」は、旅の行き先（揚州）から見た黄鶴楼の方角。方角の語は「だれから見て、どこが」その方角なのかを確かめる。

【よくある間違い】「西」……「西のかた」の文字だけを見て答えている。西にあるのは出発する黄鶴楼で、友が向かうのはその反対の東。

問七 春

【根拠】注「煙花＝春がすみの中にけむるように咲く花」。解説の第二段落「春のさかりのころ」。

【読み方の型】季節は、花・鳥・かすみなどの景物と、月の名で確かめる。昔の暦の三月は春。

【よくある間違い】「夏」「秋」……今の暦で考えない。「煙花」（春がすみと花）が決め手。

問八 ア

【根拠】第三句「孤帆の遠影碧空に尽き」。解説の第三段落「船が見えなくなるまで見送るのだから」。

【読み方の型】傍線部の理由は、傍線部の直前の「～のだから」「～ので」に注目する。

【よくある間違い】イ……作者は楼の上から見送っている（第三句「遠影」＝遠くに見える姿）。船には乗っていない。／ウ……春がすみ（煙花）は第二句の季節の様子で、待っていたのではない。

問九 イ

【根拠】第四句「唯見る長江の天際に流るるを」。解説の第四段落「作者の前には、空の果てまで流れていく長江があるばかりである」。

【読み方の型】「見る」の目的語（何を見るか）は、書き下し文の「～を」の部分＝「長江の天際に流るるを」。「唯（ただ……だけ）」があるので、見えるのは長江だけ。

【よくある間違い】ア……船は第三句で「碧空に尽き」、もう見えない。結句は船が消えたあとの景色。／エ……揚州は友の行き先で、楼から見えてはいない。

問十 黄鶴楼

【根拠】題名「黄鶴楼にて……送る」（「にて」＝で）と、第一句「黄鶴楼を辞し」。

【読み方の型】漢詩の題名は、場所・できごと・相手を表すことが多い。「～にて」は場所、「送る」はできごと、「孟浩然」は相手。

【よくある間違い】「揚州」「広陵」……友が行く先。作者がいるのは出発する側の黄鶴楼。／「長江」……楼の前を流れる川で、作者が立っている所ではない。

問十一 （例）船が青空に消えたあとも、ただ長江の流れを見つめ続ける姿をえがいて表している。

【根拠】第三句「孤帆の遠影碧空に尽き」・第四句「唯見る長江の天際に流るるを」。解説の第五段落「遠ざかる帆と、果てしなく流れる大河の景色から、友を思う作者の深い気持ちが伝わってくる」。

【読み方の型】「どのように表しているか」は、方法を答える問い。気持ちのことばではなく、何をえがいているか（船が消える→長江だけを見つめる）を書き、「～をえがいて表している。」で結ぶ。（採点：①船が消えても見送り続けている、②長江の流れだけを見つめる姿をえがく。二つで正解、一つは部分点）

【よくある間違い】「さびしいと言って表している」……詩には気持ちのことばはない。／「船に乗って長江を下ることで」……船に乗っているのは友で、作者ではない。